

平成26年度病害虫発生予報第3号

平成26年6月2日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや少ない	県全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない 5月下旬現在、発生を確認していない(平年並) 6月の降水量は平年並か少ない	— ± ±～—
	紋枯病	平年並	県全域	昨年の発生量は平年並	±
	縞葉枯病	平年並	西三河地域	前年の発生量はやや多い ヒメトビウンカの発生量は平年並 ヒメトビウンカの発生時期はやや遅く、ムギからの成虫の離脱量はやや少ない見込み	+ ± —
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イネミズゾウムシ	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は平年並	— ±

・留意事項

イネいもち病は気温20～25℃で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

コムギほ場でミナミアオカメムシの発生を確認しており、例年よりも発生量が多い地域があります。詳しくは本日発表の「ミナミアオカメムシ情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ±～—
	黒点病	やや少ない	県全域	5月の枯枝の孢子形成量はやや少ない 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	— ± ±～—

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	－
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	－
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
	黒星病	やや多い	県全域	4月の発病枝率はやや高い 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	＋ ± ±～－
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
	モモハモグリガ	少ない	県全域	5月下旬の被害葉率は低い フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	－ －
ブドウ	べと病	平年並	県全域	5月下旬現在発生を確認していない(平年並) 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－
	黒とう病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	晩腐病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	－ ± ±～－
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	越冬成虫密度は高い フェロモントラップ及び予察灯 における誘殺数はやや多い	＋ ＋

・防除対策

[モモ・せん孔細菌病]

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、デランフロアブル、チオノックフロアブル、バリダシン液剤5などで防除しましょう。

[モモ・黒星病]

収穫前日数に注意し、デランフロアブル、チオノックフロアブル、スコア顆粒水和剤などで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシンクイ]

芯折れ症状の枝は、見つけ次第処分しましょう。また、芯折れが多く見られる場合は、収穫前日数に注意し、ラービフロアブル、モスピラン水溶剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

・留意事項

ナシ赤星病の発生が多いほ場があります。発生が多いほ場では、黒星病と同時に防除しましょう。

ブドウ黒とう病の発生を一部のほ場で確認しています。べと病と同様に降雨が続くと急速に広がるおそれがあるので注意しましょう。早めの袋かけなど予防に努め、発生を確認したら発病部位を除去しましょう。

有効積算温度から予測したナシヒメシンクイの第2世代ふ化幼虫の防除適期は、名古屋市で6月16日、豊田市と豊橋市で6月18日です。適期を逃さないように防除しましょう。

有効積算温度から予測したフジコナカイガラムシの第1世代ふ化幼虫の防除適期は、おおむね前年並の6月4日から10日です。名古屋市、蒲郡市は、5月中旬に算出した予測日（5月16日発表「フジコナカイガラムシ情報第1号」参照）より防除適期が1日遅く、伊良湖では1日、南知多町では2日早くなっています。

野菜

・留意事項

キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトではタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が発生しているほ場があります。発生ほ場では次作への病害の伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

施設ナスでは、ミナミキイロアザミウマの発生が多いほ場があります。発生の多いほ場では、次作への発生源とならないように、栽培終了後に施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
		やや多い	中山間部	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-

・防除対策

[キク(露地)・白さび病]

被害葉を切除して適切に処分するとともに、ラリー乳剤やストロビーフロアブルなどで防除しましょう。耐性菌の発生を防ぐため、同一系統の農薬を連用せずローテーション散布を行いましょ。

・留意事項

豊川市のキク(露地)ほ場で、フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数が増えています。オオタバコガ幼虫による生長点への加害を防ぐため、ほ場への成虫の飛来及び若齢幼虫の発生に注意して、適宜防除を行いましょ。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台5月29日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い : 20% 平年並 : 40% 高い : 40%

[降水量] 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%

[日照時間] 少ない : 20% 平年並 : 30% 多い : 50%

農薬危害防止運動実施中 (6月1日から8月31日まで)

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止